

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200181		
法人名	有限会社 クローバー		
事業所名	ぐるーぷほーむ 花いちもんめ		
所在地	恵庭市恵み野東7丁目5番6号 (電話) 0123-37-4213		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年6月29日	評価確定日	平成19年7月24日

【情報提供票より】(H19年6月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 1 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~42,000円程度		
敷金	(有) 29,000~42,000円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	367 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,167 円		

(4) 利用者の概要(平成19年6月29日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	1	要介護4	3
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田内科医院・恵庭第一病院・加藤歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の姿は共通して明るく表情が豊かで仲のよいことである。全員がダイニングテーブルに輪を作り自分達で作ったルールをもとにジェンガ・百人一首・オセロ・パズルなどのゲームに熱中し楽しげに歓喜をあげている。食事の準備をしながら暖かい眼差しで見守る職員や利用者の輪に加わり、ともに歓喜をあげている職員がいる。支援する側、される側の垣根が取り除かれ、一人ひとりが主人公で喜怒哀楽を共感する人間同士が和やかな生活を作りあげている。理念「愛情・優しさ・思いやり・希望」の根底に流れる尊厳を基盤に全体像を具現化した姿である。代表者・管理者・職員が一体となり理念の日常化・実践化に取り組み、質の向上を目指している。人間愛に満ちたアットホームなグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市当局に「グループホームを理解・支援し、情報交流の場を組織化する」働き掛けへの期待に、早速、ほかのグループホームに呼び掛けし、9ホーム中7ホームの賛同を得て「恵庭市GH連合会」を組織化した。月1回の会合を持ち、学習会を中心にした情報交流の場になっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価のねらい・活用方法について、朝のミーティングを中心に管理者より全職員に指導し、周知をもとに組織的に実施した。評価結果には大きな要改善点はなかったが、介護のマンネリ化を防ぎ心の戒めを図ることを通して、介護サービスの質的向上に活かすことができた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域包括センター・町内会長・児童民生委員に家族と利用者代表が加わり、8名の委員でスタートし3回開催している。ホームの現状と改善課題、その取り組み状況や地域との関わりなどについて話し合いを行なっている。なお、自己評価の内容説明と外部評価の結果報告を行ない、改善に向けての客観的な意見をもとに質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の多くは近隣市町村に居住し、月1回は来訪する。来訪時には介護・医療を始め生活の様子・金銭出納などについて報告し、ホーム運営について意見を求めているが、外部機関の窓口・苦情ポストを含む苦情表現は行なわれていない。家族とはコミュニケーションを大切に、互いに何でも言える関係作りが行なわれている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し好意的に受け入れられている。ふれあいの集い・運動会・クリスマス会などに招待を受け参加とともに、町内会清掃・花の苗植え種蒔などにも積極的に加わり、双方向的交流が行なわれている。地域のボランティアも受け入れ、利用者の喜びとともに馴染みの関係ができていく。更に拡大の様子でもある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の一員として近隣との連帯関わりを得る」を思いもとに地域密着型のサービスの役割を考え、地域の中でその人らしく暮らし続けるために、地域のニーズに応える双方向的な関係を基盤に地域に根ざした運営を検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用のオリエンテーション時に説明し理解を得ている。リビングや休憩室に掲示し理念の心が日常生活の中で活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ふれ合いの集い・運動会・クリスマス会・蕎麦作りなど各種行事に参加するとともに、町内会館の清掃・花の苗植え・種蒔などの作業にも積極的に加わり、双法的な交流を行なっている。地域のボランティアも受け入れ馴染みの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらい・活用方法などについて、朝のミーティングを中心に周知し組織的に実施している。介護のマンネリ化を防ぎ心の戒めを凶ることを通して、質の改善・向上に活かしている。		

恵庭市 ぐるーぷほーむ花いちもんめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター・町内会長・児童民生委員に家族と利用者代表が加わり、8名の委員で構成しスタート以降3回開催している。ホームの内容と現状や改善課題などについて報告・話し合いを通して、ホームの理解と地域との係わりを目指している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内グループホーム連絡会を組織化し、月1回の会議が定例化している。連合会を通して市との交流が進められているが、ホームの現状に即した質の改善を図る連携までには至っていない。	○	ホームの実情に即し、市民福祉の推進者である市町村とともに質的向上に取り組む連携が望まれる。その働き掛けを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の多くは札幌・北広島・千歳市に住居し月1回は来訪する。面会時には介護・医療を始め生活の様子や金銭の出納について報告している。必要に応じて電話連絡も行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、ホーム運営に関する希望・意向を尋ねるとともに、重要事項説明書には事業所と行政機関の苦情窓口を掲げホームには苦情ポストを設置している。家族とのコミュニケーションを大切に互いに何でも言える関係作りが行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の運営に対する意向を大切に環境を作りを進め、馴染みの職員が継続して支える体制に努めている。やむなき交代の場合は、引き継ぎ期間を十分に取り、利用者・家族へのダメージ緩和の配慮を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質的向上を図るために、採用時と継続の研修を規定している。外部研修の内容はカンファレンスで報告し共有を図っている。市グループホーム連合会による介護現場の実情に即した研修が行なわれ好評である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連合会が結成され、月1回の会合をもとに学習・研修・報告・見学などを通じた事業所交流が軌道に乗り、同業者相互による質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の入居者は病院紹介者であるが、家族とともに見学機会を設け職員・サービスなど雰囲気になじみ、納得を基本に入居へ移行している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側の意識をもち、ともに暮らす同士として、一喜一憂・喜怒哀楽をともにし、支え合いの関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの言動を通して思いや意向を汲み取り、把握している。希望を聞き取れない場合は家族からの情報をもとに利用者のニーズに答えるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをもとに、全職員でカンファレンスを行ないケアプランを作成している。家族来訪時にはケアの現状を報告し、気付き・意見・アイデアはカンファレンスで検討し反映している。日常的には職員全員でモニタリング・カンファレンスを行ない利用者本位のケアプランの作成を繰り返ししている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間設定は3ヶ月としているが、担当者を中心に状況変化や家族・利用者の要望に応じてミニカンファレンスを行い随時の見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、医療機関への送迎・受診・付き添いなど柔軟に対応し、支援・サービスを提供している。また、地域住民には介護に対する保険・医療・福祉に関する相談・支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの掛りつけ医を含め2つの医療機関と連携し関係を密にしている。診療内容により様々な医療機関で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、重度化の指針を示し、話し合いのもとで確認書を交わしている。緊急時の対応については、医療機関との連携を密に対応するが、終末期ケアに対するホームの体制は整っていないことに家族の理解は得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者の指導のもとで、利用者の誇りや自尊心を傷付けないよう全職員が周知徹底している。なお、個人情報漏洩防止に向け誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには基本となる一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、利用者のペースにそって個別化を大切に自由な過ごし方をしている。職員は見守りながらともに生活をしている。		

恵庭市 ぐるーぷほーむ花いちもんめ

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けや場面作りを通して、調理手伝い・盛付け・食器洗いなどを自己決定を基本に行っている。その間、会話が弾み楽しい時間となっている。食事は利用者・職員がともに食卓につき同じ物を食べ、食事内容は個別化が配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けをして1日3人その都度湯を替え入浴を楽しんでいる。朝風呂・夜間入浴の希望はないが、希望があった時点でその対応も検討することになっている。入浴拒否者はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は日常生活の中で、一人ひとりが楽しみ事・役割の場面を作り出している。声掛けがなくても自ら意欲的に行なっている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調を配慮し毎日午前中に行なっている。利用者のレベルに応じて外気浴のみの場合もあるが、心身の活性化のために外出を促している。地域の方々との出会いの場面でもあり大切にしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は一般家族と同様に夜間は施錠しているが、日中は施錠を始めセンサー・チャイムの取り付けもなく、自由な暮らしを支援している。1日10回程の外出者が居るが外出を察知したら一緒について行き、安全面を配慮し見守っている。		

恵庭市 ぐるーぷほーむ花いちもんめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	選任防火管理者のもとで消防用・救出用設備を日常的に点検している。また、非常災害の計画を立て消防署の指導を得て避難訓練を行ない、避難場所の確認・消火器の使い方などの訓練を行なっている。なお、地域ぐるみの避難体制を検討中である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー摂取量は1400に水分は1000ccを目安にしている。毎日の記録をもとに水分不足者にはバリエーションを考え提供している。メニューは高蛋白・低カロリーを心掛け、全粥・刻み・ミジンなどレベルに合わせて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ロビーを開けると開放的・一体的なリビング兼ダイニングを中心に共有空間と居室が隣接している。光の強さ音の大きさ・臭いなど、五感刺激の配慮がなされ、置物・装飾品より生活感・季節感を採り入れ、居心地のよさが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具を始め日用品を置き、写真や自作品を飾り好みに応じた環境を作っている。安心して過ごせる居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。